東京　明治十六年十二月五日　水曜日　第五百二十九號　日曜日休刊　定價金三錢

叙任

○明治十六年十二月三日
兼任參事院員外議官補　外務權大書記官　正六位　勳五等　澤田　德則
全　大藏少書記官　從六位　目賀田種太郎

時事新報

似我主義

他ナシテ我ニ似セシムルヲ似我ト云フ似我ノ主義ハ眞ニ東洋人ノ間ニ行ハレ支那ノ儒流最モ之ヲ助長セシモノヽ如シ詩ノ小雅ニ云ク螟蛉有子螺蠃負之ト、之ヲ註スル者曰ク螺蠃ハ螟蛉ヲ負フテ化シテ其子ト爲スヲ以テ似ザルモノヲ教ヲ而シテ似ル可キ喻フナリト、傳ニ云ク堯ノ子丹朱不肖ト之ヲ釋スル者曰ク不肖トハ生子父母ニ似ザルノ謂ナリト古來日支兩國ノ儒流ガ父母ヲ以テ其子ノ典型ト爲シ子ハ必ズ其兩親ニ似ルモノナリトテ養子ヲ稱シテ螟蛉子ト云ヒ又子ハ父母ノ德ニ肖ザルヲ耻トシ不肖ノ二字ヲ以テ子ガ其父ニ對スルノ謙辭ト爲シタルガ如キ不知不識ノ際似我主義ノ範圍ニ陷リ之ヲ奉シテ周旋シタルモノト云フ可シ蓋シ人トシテ己レト狀貌ヲ同スルノ子ヲ愛シテ一體分身ノ看ヲ作シ又己レト氣質ヲ同スルノ友ヲ愛シテ莫逆刎頸ノ交ヲ爲スハ人情我ニ似タルヲ好ムニ出ツ、故ニ似我主義ハ自ラ凡俗ノ常情ニ稱フト雖ドモ此常情ニ任シテ此主義ヲ信スルヨリ世事文明ノ進歩ヲ阻碍スルヿ決シテ少小ニ非ザルナリ何ヲ以テ之ヲ盲フトナレバ所謂進歩トハ舊ヲ棄テ新ニ就クヿナリ然ルニ彼ノ似我主義ハ有ル模形ニ擬似セシムルニテ無キ機軸ヲ出サシムルニ非ズ苟モ新機軸ヲ出ス能ハザレバ縱令ヒ其擬似異ニ逼リ模形ニ對シテ慙色ナキニ至ルモ亦タ唯優孟ノ衣冠ノミ依樣畫葫蘆ノ類ノミ進歩ノ痕ハ毫モ其間ニ見ル可ラザルモノ、如シ今試ニ有形世界ノ有樣ヲ看ルニ子孫ハ其父祖ニ似ズシテ或ハ寧ロ之ニ優リ常ニ出藍ノ看アルガ如シ銃砲ノ鼻祖ハ火繩筒ナレドモ次第ニ改良シテ遂ニ今ノ施條銃トナリ船舶ノ先祖ハ風帆船ナレドモ是レ亦新樣ニ移リテ遂ニ今ノ蒸氣船トナリ双方相對シテ比較スレバ實ニ月鼈モ啻ナラズト雖ドモ血統ヲ正シテ論ズレバ蒸氣船ハ風帆船ノ子孫ニシテ火繩筒ハ正シク施條銃ノ先祖ナリ蒸氣車ハ馬車ノ子ニシテ馬車ノ先祖ハ大八車ナラン、活版銅石版ハ木版ノ子孫ニシテ烽火相圖ハ電信ノ宗家ナリ此他煉化石室ノ穴居ニ於ケル綺羅錦繡ノ獸皮麻布ニ於ケルガ如キ同一ノ血統ニシテ累世其骨肉ノ相類似セザルモノハ枚擧ニ遑アラザルナリ似我論者ノ眼ヨリ見ルトキハ蒸氣船施條銃以下ノ者モ共ニ不肖ノ子ナラント雖ドモ不肖ノ子累世積重出スルハ有形實物ノ進歩ニ決シテ欠ク可ラザルナリ、以上ノ所論果シテ是ナラバ宜ニ擬似ヲ出シ今日ニ進ヤモノナシテ明日ニ有ラシムルニ非ズレバ有形實界ノ進歩ヲ見ル可ラザルヤ明白ナリ若シ此世界ニ在テ似我主義ヲ義フントナラバ火繩筒ハ施條銃ニ向テ我ニ似ザル可ラズト云ヒ風帆船ハ蒸氣船ヲ不肖ナリトシテ之ヲ擯斥セザル可ラズ施條銃ト蒸氣船ハ果シテ前非ヲ悔悟シテ父祖ノ形ニ類似センヿヲ勉ム可キヤ三歳ノ童子モ尚其得失ヲ辨スルヿナラン似我主義ハ既ニ有形實物ノ世界ニ行ハル可ラズトスレバ社會ノ先進後進ノ關係ニ於テモ亦往々此主義ヲ採用ス可ラザルモノアルガ如シ例ヘバ父ハ其子ニ向テ第二ノ我タランヿヲ責メ子モ亦其父ニ向テ第二ノ我タランヿヲ責メ子モ亦其父ニ對シテ同シク不肖ヲ慮ラズ老者ガ少者ニ對シテ不平ヲ唱レバ少者ハ老者ノ不平ニ對シテ更ニ又不平モ多カラン斯ク双方ヨリ不平ノミニテハ到底際限モナキヿナレバ少者モ大ニ勘辨シテ無益ニ老者ノ情ヲ傷フナキヲ勉メ老者モ亦天下後世ノ爲ニハ老婆心中一時ノ不愉快ヲ堪忍シ漫ニ螺蠃ノ爲ヲ學ハズシテ文明進歩ノ競場ニ不肖ノ子孫多カランヿヲ求ム可キナリ見ル可ラザルヤ明白ナリ若シ此世界ニ在テ似我主義ヲ義フントナラバ火繩筒ハ施條銃ニ向テ我ニ似ザル可ラズト云ヒ風帆船ハ蒸氣船ヲ不肖ナリトシテ之ヲ擯斥セザル可ラズ施條銃ト蒸氣船ハ果シテ前非ヲ悔悟シテ父祖ノ形ニ類似センヿヲ勉ム可キヤ三歳ノ童子モ尚其得失ヲ辨スルヿナラン似我主義ハ既ニ有形實物ノ世界ニ行ハル可ラズトスレバ社會ノ先進後進ノ關係ニ於テモ亦往々此主義ヲ採用ス可ラザルモノアルガ如シ例ヘバ父ハ其子ニ向テ第二ノ我タランヿヲ責メ子モ亦其父ニ向テ第二ノ我タランヿヲ責メ子モ亦其父ニ對シテ同シク不肖ヲ慮ラズ老者ガ少者ニ對シテ不平ヲ唱レバ少者ハ老者ノ不平ニ對シテ更ニ又不平モ多カラン斯ク双方ヨリ不平ノミニテハ到底際限モナキヿナレバ少者モ大ニ勘辨シテ無益ニ老者ノ情ヲ傷フナキヲ勉メ老者モ亦天下後世ノ爲ニハ老婆心中一時ノ不愉快ヲ堪忍シ漫ニ螺蠃ノ爲ヲ學ハズシテ文明進歩ノ競場ニ不肖ノ子孫多カランヿヲ求ム可キナリ

電報

○十二月一日龍動發　佛國代議院よては東京事情の報告を發布し且つ支那と平和の談判を遂けんとを企望するの意を表せり然し東京援兵に關する必要の準備い尚之を廟止せず

雜報

○勅使差遣　本日は故從三位近衛敬子の方の葬送に付昨日午前十一時從三位德川家達氏の邸へ　勅使として東園侍從を差遣されたり

○謁見　領事原敬氏は本日當地出發任地清國天津ゐ赴くに付一昨三日午前十時謁見幷に賢所參拜仰付けられ休所ゐ於て酒饌と賜りたり

○長與衛生局長　同內務省三等出仕は一昨三日長崎縣外四縣巡回の序を以て鹿兒島縣巡回と仰付けられさり

○工藝品取調　關西聯合府縣共進會審査官長農商務省准奏任御用掛山本五郎氏審査官同荒川新一郎氏い同會審査の事務を結了し工藝品取調のため去月廿五日大和地方へ向け出發したり

○漁船評價　大坂商船會社へ加入の漁船評價のさた同所へ出張を命せられたる農商務省准奏任御用掛小笠原貫齋氏幷に同省備外國人テーロル氏い去月二十四日著坂同廿七日より漁船の檢査に着手したり

○事務取扱　內務少書記官取調局勤務濱貝靜瀛氏及同省准奏任御用掛島山重明同後藤敬臣の兩氏は一昨三日各左の通命せられたり

內務少書記官　磯貝　靜瀛
警保局事務取扱兼務申付候事
內務省准奏任御用掛　島山　重明
秘書掛兼警保局事務取扱申付候事
內務省准奏任御用掛　後藤　敬臣
內閣事務取扱申付候事

○入浴　內閣權少書記官小野正弘氏ハ癪病のため熱海温泉へ入浴且調の上一昨三日出發しより

○上京　農商務權少書記官長岡磯吉事務所在當地幷嘉次郎氏は去る一日上京

○千谷判事　前橋裁判所千谷判事は去る一日上京

○出張　陸軍中將川上操六氏は去る一日上京

○山縣太政官總理大臣　ンベック氏ゐ會せられ昨日陸軍卿ゐ

○判事　判事平賀義質氏は去る一日上京

賜候旨仰渡され

○江藤元五郎氏　江藤元五郎氏は去る一日上京

元內地を跋涉せ

五郎氏は其筋と

就き一昨日神戸

○佛國大藏卿　佛國大藏卿ワディントン氏は去る一日上京

退くゐらんとの

リー氏は更に

かし先んじ

事の決着を見

○前東京總督　前東京總督ヒューガン氏は去る一日上京

る由は兼て聞

ール港に安着し

○拉馬尼亞國　拉馬尼亞國の使ホワイトの報

八万六千磅に

千磅とす」この

建築に係り百二

關する公費の消

後經常費計の不

銀道は總て九百

屬す而して其の

り八十一年に至

磅の取入に對す

差引七百七十七

の銀道の便ゐ由

下の得失を復せ

以テ駐ム可カラス文明競進ノ世ノ中ニ在テハ故吾モ今吾ニ非ズシテ自身ノ變遷スル宜一定ノ擬形ニ從フ能ハズ況シヤ今ノ我ヲ以テ子孫百年ノ範法ト爲シ之ヲ眼藏セシメントスルニ於テヤ白痴ノ父祖ガ子孫ノ我ニ似ルヲ喜ビ笑ヲ合テ地下ニ瞑目スルガ如キヿアラバ其父祖ノ一心ニ於テハ滿足スルモ天下文明ノ進歩ノ爲メニハ喪服ヲ服シテ之ヲ弔セザルヲ得ズ父祖ノ老眼ヨリ其子孫ノ新學新識ニ就クヲ見タラバ定メテ不平ヲ感スルナラン今ノ子孫モ亦父祖ノ地位ニ立タバ又子孫ニ對シテ同シク不平ヲ感ス可シト雖ドモ是レハ老少循環ノ定數ナレハ如何トモス可ラズ老者ガ少者ニ對シテ不平ヲ唱レバ少者ハ老者ノ不平ニ對シテ更ニ又不平モ多カラン斯ク双方ヨリ不平ノミニテハ到底際限モナキヿナレバ少者モ大ニ勘辨シテ無益ニ老者ノ情ヲ傷フナキヲ勉メ老者モ亦天下後世ノ爲ニハ老婆心中一時ノ不愉快ヲ堪忍シ漫ニ螺蠃ノ爲ヲ學ハズシテ文明進歩ノ競場ニ不肖ノ子孫多カランヿヲ求ム可キナリ